

一般社団法人おもやい

2025 年度 事業報告 (案)

□はじめに

2025 年 1 月 17 日は阪神淡路大震災から 30 年。ボランティア元年と言われたこの年、多くのボランティアが被災地に個人的に駆けつけ、目の前にあるもの、できることを模索しながら活動を始めた。仕組みも組織もルールもない中、命をつなげるために必死で活動を行った。その後、仮設住宅での活動や在日外国人へのサポート活動、さらには公営住宅でのコミュニティづくりの活動などが自主的に行われてきた。

「ボランティア」とは、2012 年に神戸大学名誉教授の精神科医である中井久夫さんはこう述べている。

「とっさに知恵を働かせ、今この状況で何ができるかを考え、臨機応変に対応した無名の人々がいる。」

「有効なことを成し得たのは、すべて、その時点で最良と思う行動を自己の責任で行なった者であった。指示を待った者は何事も成し得なかった。」

「存在してくれること、その場においてくれることがボランティアの第一の意義」

それぞれ一人ひとりの視線、それぞれ一人ひとりの気づきによって多くの活動が行われ、またその活動によって多くの方々が救われたのが阪神淡路大震災ではなかったか。

一方、2024 年に能登半島地震が発生し、能登半島は多くの混乱の中やはり多くのボランティアが駆けつけ、被災された方々の命を繋ぎ止めるための活動を行ってきたが、災害に対する行政の対応はむしろこれまでの経験や教訓を全て無に帰すかのような状況が発生していた。

そして、近年熊本地震以降、能登半島でも災害によって命を落とされる方々以上に、災害関連死と認定される方々の割合が増えている。そうした現状を鑑みて、国は大きく災害時の体制について次のフェーズへと舵を切った。

それが災害時に活動する団体を登録制にすること（災害時協力援護団体）であるが、これによってこれまで培われてきたボランティアの意味・意義が大きく揺らぐこととなる。

私たち「おもやい」は組織としてというよりも、むしろそれぞれがそれぞれのスタンスで、その時々でできることを行うという形で様々な活動を実施してきた。当然、フードリンクのような定期配布を行う事業や、それに伴って繊細な事情を抱えておられる方の課題の改善に、できる人ができることを提供する、また地域の方からの依頼でちょっとしたお手伝いをする、これらは「おもやい」という場に様々な形で往来する人たちの交流であり、支え合いでもあり、この場を組織として捉えるのではなく、むしろ「おもやい」という理念に共感し、共有する人たちの集まりであることをここ数年、強く感じるところでもある。

言い換えると、今のご時世・風潮とは少し違う、だからこそ気づく、だからこそできる体制がここにはあると言えるのではないか。

シンプルに「困った人がいたらお手伝いをする」という令和元年の出発点から、今もなお変わらずにその心根のまま、ご縁のある方が増えてきたという実感がある。

改めて、私たちの立ち位置を、私たちだからできることが何かを考えて行動を続けていくことをここで確認したい。

□地域内活動

1. 訪問活動（新型コロナウイルス感染対策活動・生活困窮の方々へのサポート含む）

継続しての訪問活動をオカベース、(一社)みんなの居場所はちほちと共に実施。地区はこれまでの特に気になる方へは必要に応じて関係機関へとおつなぎするなどの対応を行なった。

2. サロン・居場所づくり事業

地域共生センターそよぎを活用してのサロン等を実施した。特に、マッサージを提供して下さるタクティールさんのサロンやヨガ教室などは一定定着し、「いやしの日」として多くの方々がこの拠点に出入りをしてくださった。こうした他団体がこの場を利用して、それぞれの取り組みを提供して下さることは多機能拠点として重要な位置付けであると認識し、今後もこの場をさまざまな方々に活用してもらうよう働きかけをしていくことが望ましい。

- ・タクティールさんによるサロン：11回開催、のべ60名参加
- ・ヨガ教室：17回開催、のべ85名参加
- ・いやしの日：5回開催、のべ45名参加

また、居場所づくりとして、「みんなの遊び場」の開催は以下の通り

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 1月15日 利用人数 24人 | 9. 8月18日 利用人数 13人 |
| 2. 1月29日 利用人数 27人 | 10. 9月16日 利用人数 14人 |
| 3. 2月19日 利用人数 22人 | 11. 10月15日 利用人数 11人 |
| 4. 3月12日 利用人数 21人 | 12. 11月11日 利用人数 12人 |
| 5. 5月12日 利用人数 14人 | 13. 12月11日 利用人数 11人 |
| 6. 6月9日 利用人数 16人 | ・実施回数 13回 |
| 7. 6月16日 利用人数 13人 | ・利用総数 213人 |
| 8. 7月7日 利用人数 15人 | ・ボランティア人数 17人 |



今年度はボランティアの確保が難しい年であったこともあり、昨年と比較して回数は減ったものの、ほぼ毎月開催した。

今後もボランティアなどを確保しながら実施を検討していく。

3. イベント事業

2025年度はおもやい法人取得から5年ということもあり、11月に開催したおもフェスに集中した形でのイベント開催となった。

11月 おもやいフェス実施

12月 しめ縄づくり

サロン事業、イベント事業など、様々な世代の方々に広くそよぎを利用してもらっての地域における多機能・多文化交流拠点としての機能を次年度以降もより高めていきたい。

4. ボランティア活動事業

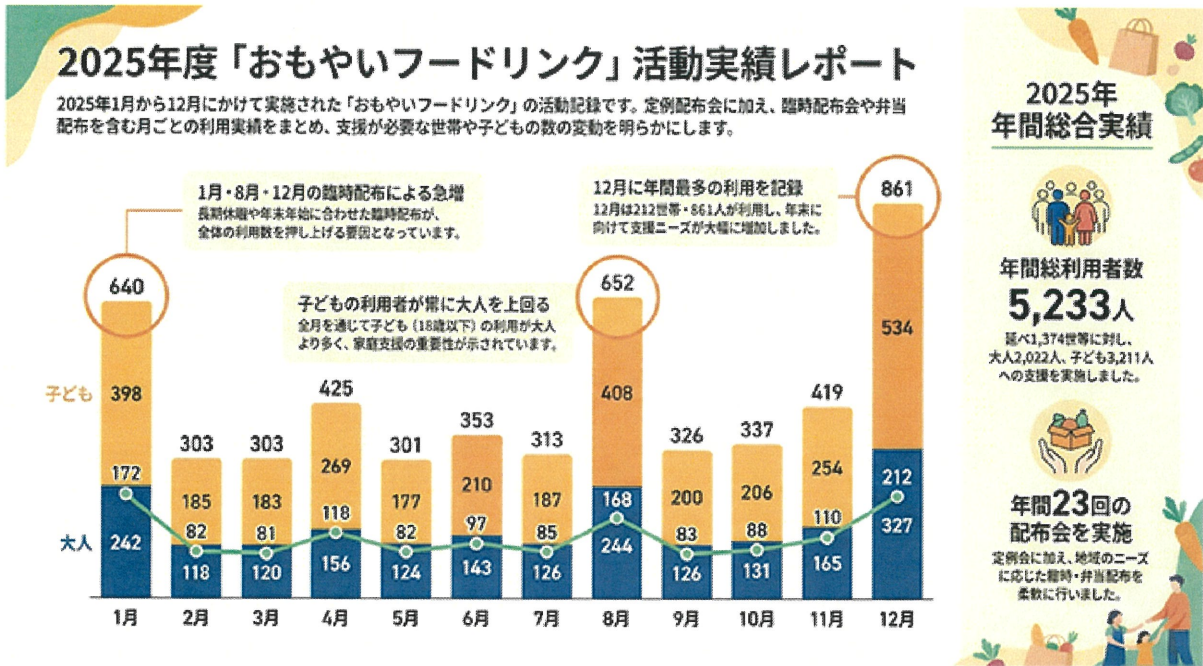
地域内においては、さまざま小さなお困りごとから片付け依頼など、各種対応を実施。火災などによって家屋を失った方々への緊急サポートの依頼などもあり、今後もこうしたご近所への対応を実施していく。

5. 「おもやいフードリンク」事業（相談事業含む）の実施

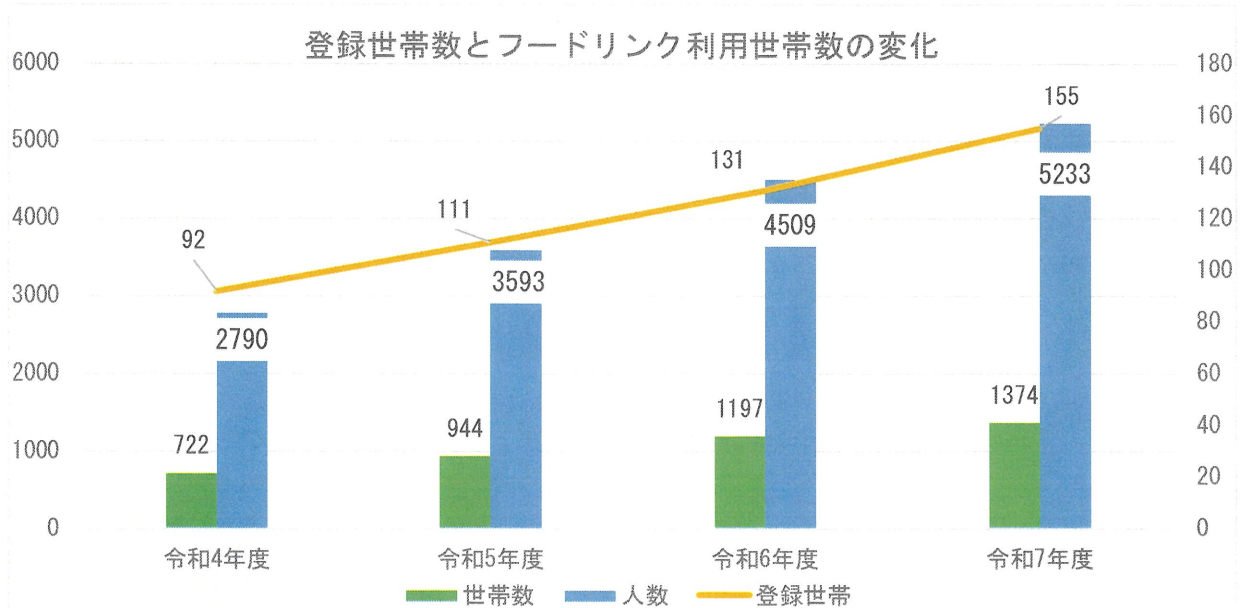
本年度も「独立行政法人福祉医療機構（通称：WAM）」からの助成金をいただき、フードリンク事業を実施することができた。実施内容は以下の通り

1. 1月8, 10, 11日 臨時配布会 48世帯 162人(大人60人、子ども102人)
2. 1月11日 餃子の王将弁当配布 9世帯 30人(大人10人、子ども20人)
3. 1月19, 20, 21日 定例配布会 83世帯 312人(大人123人、子ども189人)
4. 1月25日 臨時配布会 32世帯 136人(大人49人、子ども87人)
5. 2月23, 24日 定例配布会 82世帯 303人(大人118人、子ども185人)
6. 3月23, 24日 定例配布会 81世帯 303人(大人120人、子ども183人)
7. 4月1日 餃子の王将弁当配布 11世帯 30人(大人9人、子ども21人)
8. 4月14, 15, 16日 臨時配布会 24世帯 86人(大人22人、子ども64人)
9. 4月26, 27, 28日 定例配布会 83世帯 309人(大人125人、子ども184人)
10. 5月24, 25, 26日 定例配布会 82世帯 301人(大人124人、子ども177人)
11. 6月10, 11, 12, 13日 臨時配布会 13世帯 50人(大人21人、子ども29人)
12. 6月21, 22, 23日 定例配布会 84世帯 303人(大人122人、子ども181人)
13. 7月19, 20, 21, 22日 定例配布会 85世帯 313人(大人126人、子ども187人)
14. 8月4日 餃子の王将弁当配布 10世帯 30人(大人6人、子ども24人)
15. 8月4, 5, 6日 定例配布会 82世帯 323人(大人126人、子ども197人)
16. 8月25, 26日 定例配布会 76世帯 299人(大人112人、子ども187人)
17. 9月27, 28, 29日 定例配布会 83世帯 326人(大人126人、子ども200人)
18. 10月18, 19, 20日 定例配布会 88世帯 337人(大人131人、子ども206人)
19. 11月5, 6, 7日 臨時配布会 28世帯 111人(大人44人、子ども67人)
20. 11月17, 18, 19日 定例配布会 82世帯 308人(大人121人、子ども187人)
21. 12月7, 8日 定例配布会 86世帯 346人(大人134人、子ども212人)
22. 12月21日 定例配布会 85世帯 330人(大人125人、子ども205人)
23. 12月23, 24日 臨時配布会 41世帯 185人(大人68人、子ども117人)

- ・実施回数 23回
- ・総世帯数 1374世帯、総数 5233人(大人 2022人、子ども 3211人)



昨年度に引き続いてよりみちステーションと協働でおおよそ月1~2回の配布会をめぐりに実施した。令和5年度では登録世帯が115世帯、令和6年度は130世帯、そして今年度は155世帯と増加傾向は止まらず、食料配布利用については令和5年はのべ利用世帯944世帯3,593人に対して令和6年はのべ利用世帯が1,197世帯4,251人と120%増、そして令和7年はのべ1,374世帯5,233人と123%（前年比）の増加となっている。さらに令和6年で利用されているひとり親世帯はこのうち約60%、令和7年は62%と利用世帯状況の変化はほぼない。



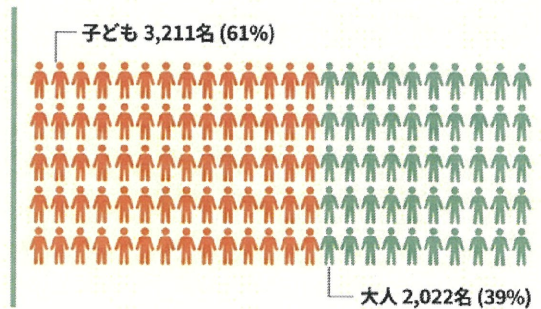
武雄市こども家庭課・笑顔コーディネーターやスチューデントサポートフェイス（武雄若者サポートステーション）、スクールソーシャルワーカーなどとの連携により対象世帯数が増加しているが、一方で個々の世帯が抱えている課題は複合化している状況などは前年同様、早期課題解決とは結びつかないものが多いことから、今後もこのフードリンク事業を軸としながら多面的な

くらしのサポート機能を充実・発展させていくことが必要である。

しかし、本事業については助成金への依存度が非常に高く、一方で収益化を見込める事業ではないため、毎年のように助成金を申請してという自転車操業の状態が続いているのも事実である。この事業を維持しながら、フードリンク利用世帯にとっての出口戦略につながるような事業も引き続き模索する。

総支援人数: 延べ 5,233名
総支援世帯: 1,374世帯

家庭内の食の安全を守るため、特に子どもたちへの栄養支援を優先しています。



6. 地域食堂「そよぎ de ごはん」の実施

みんなの居場所はちはちと協働で地域食堂「そよぎ de ごはん」事業を実施した。

1. 1月12日 利用人数 95人(大人 46人、子ども 49人)
 2. 2月9日 利用人数 103人(大人 45人、子ども 58人)
 3. 3月9日 利用人数 99人(大人 45人、子ども 54人)
 4. 4月13日 利用人数 92人(大人 38人、子ども 54人)
 5. 5月11日 利用人数 96人(大人 45人、子ども 51人)
 6. 6月8日 利用人数 70人(大人 31人、子ども 39人)
 7. 7月13日 利用人数 69人(大人 36人、子ども 33人)
 8. 9月14日 利用人数 75人(大人 35人、子ども 40人)
 9. 10月12日 利用人数 76人(大人 41人、子ども 35人)
 10. 12月14日 利用人数 84人(大人 40人、子ども 44人)
- ・開催回数 10回(※8月大雨予報のため中止、11月おもフェス開催のため中止)
 - ・ご利用人数 計 859人(大人 410人、子ども 449人)
 - ・ボランティア人数 のべ 80人

総参加者数 **859名**
開催回数 10回

多世代交流の実現 (ほぼ1:1の割合)

大人 410名 子ども 449名

平均参加者 **86名 / 回**

開催中止の記録 (透明性)

- ・ 8月: 大雨予報のため
- ・ 11月: おもフェス開催のため

本年度もみんなの居場所はちはちとの共同開催、地元の方々や並びにオカベース等のご協力のもと毎月の開催が実現した。本年度は8月・11月と中止に至ったが、令和5年の平均60名、令和6年の平均参加者76.3名から、令和7年は平均86名と参加者が伸びていることから、一定この事業が地域で認識していただいているとともに、大人と子どもの参加割合もほぼ同数となっていることから、多世代の方々が参加してくださっていることはここで改めて特筆しておきたい。

多くの方々にご協力をいただきながら実施ができていることに感謝しながら、今後も継続して実施していく。

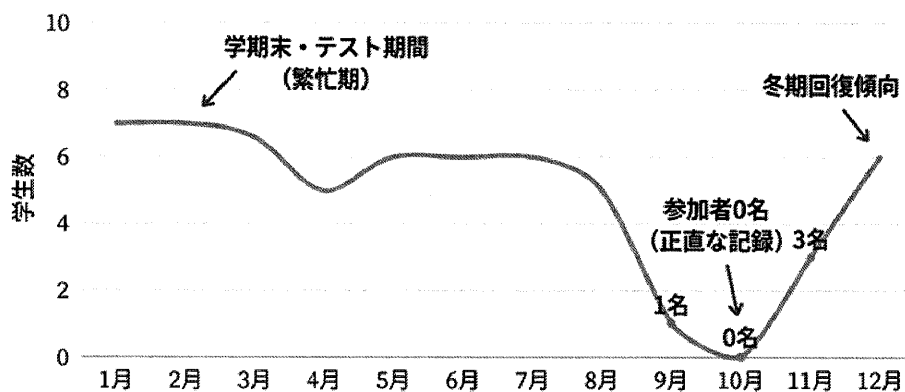
7. そよぎ学習塾の実施

みんなの居場所はちはちと協働で毎週水曜日に無料の塾を開校した。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 1月7日(火) 利用7人 | 23. 8月6日(水) 利用5人 |
| 2. 1月14日(火) 利用7人 | 24. 8月20日(水) 利用3人 |
| 3. 1月21日(火) 利用2人 | 25. 8月27日(水) 利用3人 |
| 4. 1月28日(火) 利用6人 | 26. 9月3日(水) 利用5人 |
| 5. 2月4日(火) 利用3人 | 27. 9月10日(水) 利用1人 |
| 6. 2月18日(火) 利用8人 | 28. 9月17日(水) 利用0人 |
| 7. 2月25日(火) 利用6人 | 29. 9月24日(水) 利用1人 |
| 8. 3月4日(火) 利用6人 | 30. 10月1日(水) 利用1人 |
| 9. 3月11日(火) 利用6人 | 31. 10月8日(水) 利用3人 |
| 10. 3月18日(火) 利用4人 | 32. 10月15日(水) 利用1人 |
| 11. 5月14日(水) 利用6人 | 33. 10月22日(水) 利用5人 |
| 12. 5月21日(水) 利用6人 | 34. 11月5日(水) 利用3人 |
| 13. 5月28日(水) 利用6人 | 35. 11月12日(水) 利用3人 |
| 14. 6月4日(水) 利用5人 | 36. 11月26日(水) 利用1人 |
| 15. 6月11日(水) 利用5人 | 37. 12月3日(水) 利用3人 |
| 16. 6月18日(水) 利用7人 | 38. 12月10日(水) 利用3人 |
| 17. 6月25日(水) 利用6人 | 39. 12月17日(水) 利用6人 |
| 18. 7月2日(水) 利用4人 | ・開催回数 39回 |
| 19. 7月9日(水) 利用6人 | ・利用総人数 171人 |
| 20. 7月16日(水) 利用6人 | ・平均参加者数4.5人 |
| 21. 7月23日(水) 利用6人 | (利用0人はカウントせず) |
| 22. 7月30日(水) 利用6人 | |

みんなの居場所はちはちと協働で1月～3月は毎週火曜日に、4月からは毎週水曜日に無料の塾を開校した。昨年度より開催回数は大幅に増えているが、平均利用者数は前年度と比較すると減少している。また、参加者のいない日もあったが本事業が一定の効果が確保されていることとみなすことができ、今後も実施していく。

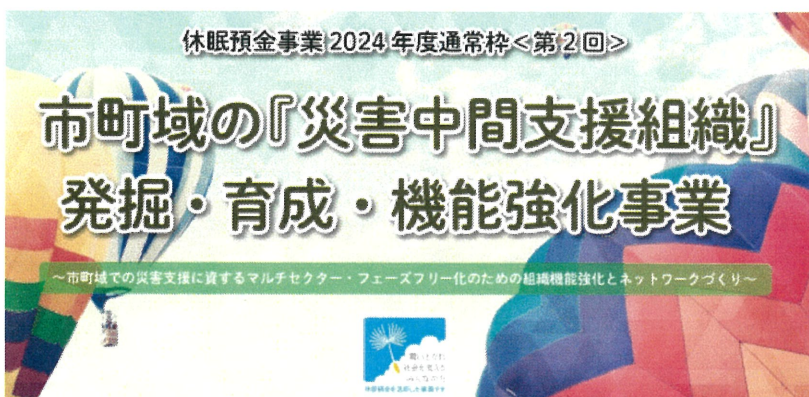
課題としては、塾の講師を務めてくださっていた方が令和8年4月より就職が決まったため、後継の講師が未定である。地元中学校からボランティアで塾を手伝ってくれる方も参加してくれるようになったが、引き続き継続させるために尽力する。



8. 防災に関する勉強会・講習会の実施

要望される地域に防災に関する講習会等を実施した。

- | | | | |
|----|---|---------------------------------------|--|
| 1月 | ・唐津市障がいのある人の避難所体験会（障害児とその親を応援する会 smile）
・武雄市防災フェスタ
・曹洞宗佐賀県12教区寺族会研修
・アイラップ講習会（武雄市社協） | ・防災食づくり教室（東川登公民館）
・佐賀市内
・北方防災教室 | |
| 2月 | ・災害ボランティアセンター研修会（佐賀県社協）
・佐賀市生活・介護支援サポーター養成講座（佐賀市役所） | 8月 | ・SPF研修センター
・日本赤十字社佐賀支部
・コープさが防災イベント
・武雄市総合防災訓練 |
| 3月 | ・佐賀市神野地区HUG
・山の会議イベント@佐賀空港
・在宅医療介護連携推進事業市民公開講座（嬉野市） | 9月 | ・西有田中学校公開授業 |
| 4月 | ・東禅寺春季法要
・えびすFM（佐賀市） | 10月 | ・佐賀新聞座段階
・避難所改善ワークショップ(RSY)
・イタリア式避難所訓練(伊万里市) |
| 6月 | ・朝日公民館防災教室
・伊万里市内
・有田中学校1年公開授業
・福岡市東区民児協研修
・災害VC設置訓練（武雄市社協） | 11月 | ・JA さが防災講座
・日田市女性防災士会
・グリーンコープふくしまつり
・高木瀬公民館
・長崎市保健環境自治会連合会研修
・大町町ひじり学園講演
・家庭科教育研究佐賀大会（有田中）
・災害ケースマネジメント研修（佐賀県社協） |
| 7月 | ・富士町防災フェスタ（佐賀市） | 12月 | ・曹洞宗佐賀県16教区寺族会研修 |



また、令和7年度10月よりモデル地域として太良町を選定し、発災時に対応するための連携を模索するための事業を、休眠預金等活用事業「市町域の『災害中間支援組織』発掘・育成・機能強化事業（資金分配団体：佐賀未来創造基金、佐賀災害支援プラットフォーム）」の助成金を使用して、具体的な連携体制づくり

の取り組みを実施した。（本事業については、令和10年2月まで実施予定）

9. 「居住支援法人」指定の取得

相談事業に合わせて、佐賀県より「居住支援法人」指定取得を目指したが、本年度では実施できなかった。次年度に持ち越しとする。

10. 武雄市・大町町との連携会議への参画

令和4年から続く会議へ継続して参加した。ただし、大町町での連携会議への参加がなかなか

難しい面もあるが、今後も継続して開催される際には参加をしていく。

1.1. 他団体との連携事業

佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）へ主に運営委員という立場での参画した。また SPF が開催するワークショップ等への参加も行った。

震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）については、令和7年度より共同代表という任を命ぜられたため、これまで以上に震つなの事業への参加を行う。震つなとしてはネットワーク団体としての課題を有しており、様々なネットワーク団体がある中、震つなとしての役割をどこに見出すのか、今後も議論をする必要性がある。

□災害に関する県内活動

1. 災害支援活動（相談業務も含む）

・令和5年に発生した唐津市浜玉町・佐賀市富士町での土砂災害において農ボラ（休眠預金活用事業）を実施。令和6年7月～令和7年3月までの期間で、

▶相談件数：26件

▶応急復旧作業件数：37件

▶ボランティア数：のべ234名

その後のヒアリング調査によって、以下のような被災された農家さんの実情が見えてきたので、ここで共有したい。

▷制度で対応できなかった理由には、そもそも制度の対象外であることと、制度の対象であっても難しいことがあった。

▷制度の対象外となった理由には、個人所有の木、流木、資材が土砂に含まれている場合があった。また営農には必要だが対象には含まれない倉庫もあった。

▷制度の対象であっても難しい理由は、金銭的理由、時間的理由、業者不足の3点だった。金銭的理由は、自己負担をする限界があること。時間的理由は、期日までに手続きをする、工事を完了することができないこと。業者不足は、業者が足りずに復旧にかなりの長時間を有することである。

・令和7年7月の豪雨によって熊本県内での水害が発生した際、武雄市内等で床下浸水などの被害があったため、現地でヒアリングを行ったが、ほとんど床下浸水だったため、被災された方々は個別に対応をされていた。一部送風機を貸し出したケースもある。

2. 「おもやい生活再建支援金」の継続

昨年度の経験から支援金の必要な自治体へ配布できる体制を維持したが、本年度は実施に至らなかった。

□災害に関する県外活動

1. 令和7年8月豪雨（熊本県）

熊本での豪雨災害を受けて、OKBASE が連携している玉名市のオレンジピースをサポートするため、玉名市・玉東町で活動をそれぞれ実施。のべ200日を超える活動を実施した。主にボラセ

ンでは対応できないニーズに対して、おもやい+で対応を行うなどを実施したい。

2. 令和6年能登半島地震の対応

今年度も被災地 NGO 協働センターのサポートとして活動を実施。のべ 150 日以上のスタッフ派遣となった。

□その他

1. 佐賀県ふるさと寄附金（NPO 等を指定したふるさと納税を活用した支援）の活用

今年度は着手せず。今後、GCF（ふるさと納税の仕組みを活用したクラウドファンディング）を活用するための準備を今後進めていく。

2. 新規事業等の実施

今年度は、佐賀県国際交流協会からの助成金を得て、「おもやい国際交流カフェ」を実施した。ルワンダで義足の製作をされている方々をお招きして、今のルワンダの現状などを報告いただいた。

今後こうした国際交流カフェを適時実施する。

3. 法人取得 5 周年記念事業の実施

おもやいが設立されて 6 年、法人取得をして今年度で 5 年が経過したため、おもやいフェスを実施した。

4. マンスリーサポーターの募集

おもやい法人取得 5 年を記念して、6 月からマンスリーサポーターを募集したところ、71 名の方々がマンスリーサポーターとして登録された。また、マンスリーではなく寄付をしてくださった方、また毎月持ち込みでご寄付をしてくださる方など、この取り組みによっておもやいを支えてくださる方々がいてくださることについては、感謝しかありません。